

2017年度公正研究推進連絡会議 APRIN分科会活動報告

第3部 分科会別討論会 人文社会学系

座長 井野瀬久美恵
APRIN理事・甲南大学文学部教授
2018.3.6. @東京大学本郷キャンパス

人文学系・社会科学系における研究倫理と研究不正
に関する意識向上のために→「気づきの会」

- * 「盗用」が圧倒的に多いことの意味
一次資料の発掘・引用、勝負となるアイデア
研究倫理・不正と研究評価との関係
- * 教材の方向性——FFP理系との業績評価指標の違い
- * 事例集の作成——特に境界事例の検討
(具体的かつリアル過ぎない事例をどのように集めるか?)
- * 人文社会学の研究活動のどこにどのような不正リスクが潜んでいるか——「気づきの会」の必要性
- * 組織として研究不正防止のために何ができるか?

研究不正は各研究分野の「文化(culture)・学
問特性」に依存する→その具体的解明を研
究の質向上、研究公正力に生かす

- * 2017年9月16日 13:00~15:00
人文社会学系研究倫理教育教材の方向性議論
- * 2017年12月7日 18:30~21:30
「気づきの会」第1弾 @近畿大学東大阪キャンパス
アカデミック・シアター
・学際領域の学部設立とも絡んだ議論の中で・・・
・異なる分野の研究評価と研究不正の関係
- * 2017年12月23日 13:00~17:00
「気づきの会」第2弾 松澤孝明氏講演
(科学技術・学術政策研究所)

グローバル時代の研究倫理教育とは何か?
→研究倫理教育を「やらさせれている感」の打開と
学習効果の改善

- * 203件中114件が人文社会学系の研究不正 (1970年代
から2012年10月) / 日本人の研究不正の高さ
- * 誰が不正を行うのか?
文系は教授? (⇔理系は若手研究者)
→教えられたようにしか教えられない・・・
- 誰の何をなぜ盗用するのか?
博士人材の「研究公正力」とはどのようなものか?
- * 「盗用しようとは思わなかった・・・」
善意の不正? 不注意? →知らない人は不正にはまる
- * 現行のe-learningの学習効果への疑問

研究公正力と研究の質(「良い研究」)との関係を考える←不正行為を行った研究者の影響は広範囲に及ぶ

*研究倫理教育の実施のみならず、予防倫理として「良い研究」とは何かを考える/考えさせる教材作成に!

→ その一部に研究公正力、研究倫理の力がある。

*研究評価のあり方：研究業績とは何か?

研究不正と論文不正の間・・・

*証拠(エビデンス) 優越

*誰に向かって何を書き、何を主張したいのか?それがどんな意味を持つのか?

*研究倫理の国際比較——「国民」の質の底上げ

研究不正は各研究分野の文化(culture)・学問特性に依存している→その具体的解明を研究の質向上、研究公正力に生かす

*分野ごとに昇格の業績数、業績評価フォーマットが異なる。(単著/共著、書籍/論文、査読の有無)

*文系・理系の類似と相違(学際領域で浮上する問題)

*学会の査読基準・査読プロセス(その比較)

ダブルブラインドの効用

*海外ジャーナル中心?紀要論文の位置づけは?

*英語(外国語)論文と日本語論文の間を量的・質的にどう考えるか?

*研究不正の境界領域

→異分野との接触で自らの研究を意識する→**気づき**